



令和3年9月6日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（8月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和3年8月分）

1. 医工連携による臨床研究開始について記者発表を実施
2. B-JET キックオフ・シンポジウムを開催
3. 宮大生が日本地域政策学会第20回研究大会において会長賞を受賞
4. 宮崎大学履修証明プログラム「宮崎大学420単位時間日本語教員養成プログラム」
2021年度開講式を開催
5. 宮崎基地特攻資料展を附属図書館にて開催

1. 医工連携による臨床研究開始について記者発表を実施

令和3年7月29日(木)、宮崎大学において、医工連携による異分野融合型臨床研究を開始したことについての記者発表が行われた。

記者発表では、医学部と工学部との医工連携分野



で組織的に取り組み、医学部の帖佐教授と工学部の山子准教授の研究チームが遊びながら楽しくロコモを予防・改善する新感覚ロボットシステム「LOCOBOT®(ロコボット)」を開発し、この度、このロコボットを使ったりハビリによる、人工股関節・膝関節全置換術患者の運動機能改善への効果を検証する臨床研究を医学部附属病院で開始したことについて説明があった。

また、この臨床研究によりリハビリ期間の短縮化や効率化、人件費の抑制等が期待されるとともに、スポーツトレーニングや、老人ホーム等で高齢者のロコモ予防、認知症予防にも役立つと考えることも発表された。

2. B-JET キックオフ・シンポジウムを開催

令和3年7月31日(土)、宮崎大学附属図書館にて「外国人 ICT 技術者人材育成プログラム(B-JET)キックオフ・シンポジウム」を開催した。本シンポジウムは、株式会社新興出版社啓林館からの寄附講座開講に伴い、第1部を開講セレモニー、第2部をシンポジウムとして、海外とは Zoom を利用し開催したものである。



本学は、2017年11月から2020年10月

までの JICA 事業期間(第1フェーズ)に、「宮崎-バングラデシュモデル」を展開し、バングラデシュ ICT 人材向けの日本就職を目的としたプログラムを通じ51名が宮崎県内に就職している。今回の2021年4月からの第2フェーズでは、寄附講座を基盤に事業の継続的な展開を図る。

第1部の開講セレモニーでは、池ノ上学長の言葉で開会し、講座寄附者：株式会社新興出版

社啓林館から北川代表取締役専務、さらに B-JET 受託事業者であるノースサウス大学からモハンマド キャスロ開発センター長による挨拶があり、引き続き田阪特別教授から B-JET プログラムの経緯と今後の展望に関する基調講演があった。

第2部の「シンポジウム」では、地方におけるこれからの多文化共生と経済展開をテーマに様々な角度から意見交換が行われた。宮崎市長、商工会議所会頭を含む地域の行政と経済界の来賓によるスピーチの後、宮崎在住のバングラデシュ人 B-JET 修了生3名が登壇し、各々から就業や生活の体験談が報告された。

続いて、「宮崎-バングラデシュモデル」に造詣の深い関係者によって、トークセッションが実施され、ICT 技術者人材の需給状況について言及があり、より深い相互の理解の必要性が課題に挙げられた。また、一方では大都市とは違った宮崎ならではの温かい支援によって、良好なコミュニティが根付きつつあることが報告された。

同シンポジウムの開催によって、様々な立場の観点から意見交換が行われ、参加者間で情報を共有するとともに、今後の展望への期待が寄せられた。

3. 宮大生が日本地域政策学会第20回研究大会において会長賞を受賞

地域資源創成学部4年の石井秀海さんが、熊本県を拠点としてオンライン形式で実施された日本地域政策学会第20回全国研究大会の学生ポスターセッションにおいて、会長賞を受賞した。

石井さんは、世界各地で問題となっているプラスチック

ゴミ、とりわけ微細化して海洋に流出して漂い海岸に漂着するマイクロプラスチック (MPs) の周辺地域における実態を把握することを目的に2020年から調査を開始し、大学から近い木崎浜や青島海水浴場付近と玄界灘に面した福岡県でサンプリング調査を行い、MPs の実態と傾向を明らかにした。

その研究が高く評価され、今回の受賞に至った。

今後の更なる活躍が期待される。



4. 宮崎大学履修証明プログラム「宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム」 2021 年度開講式を開催

令和3年8月7日（土）、宮崎大学は附属図書館本館3階 komorebi において、宮崎大学履修証明プログラム「宮崎大学 420 単位時間日本語教員養成プログラム」2021 年度開講式を挙行し、第3期生 21 名（日本語非母語話者 3 名を含む）の受講生を迎えた。



式では、村上啓介国際連携セン

ター長による挨拶の後、運営支援機関代表でプログラムの講師でもある長友和彦宮崎大学名誉教授より、「本プログラムの受講を通して新しい知識や技能を身に付けながら、自分の新しい可能性を引き出し、日本語の専門家として華麗に変身してほしい。」との期待の祝辞が寄せられた。

本プログラムは、宮崎県内で唯一の文化庁届出の日本語教員養成研修であり、国立大学法人としても全国で唯一、社会人にも門戸が開かれた履修証明プログラムとして開講し、日本語教師の養成を目的としたカリキュラムを提供しているものである。

また、今年度から平日の講義開始時間を遅らせるとともに、講義によっては双方向型遠隔（Zoom）での受講に対応することにより、社会人や遠方からの受講生がより受講しやすい環境を整備したことから、宮崎市内に限らず県内各地から 20 代～60 代と幅広い年代層での受講生を多く迎えることができるようになった。

5. 宮崎基地特攻資料展を附属図書館にて開催

令和3年8月20日（金）から、宮崎大学木花キャンパス附属図書館において「宮崎基地特攻資料展」（主催：宮崎特攻基地慰霊祭実行委員会、共催：宮崎大学、後援：南九州文化会）を開催している。

本資料展は、第二次世界大戦中に日本各地で起こった悲劇が二度と繰り返すことのないよう、大学生をはじめとする若い世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えることを目的として、本学が宮崎特攻基地慰霊祭実行委員会と協力して開催しているもので、今年度が2回目の開催となった。

会場には、現在の宮崎空港である宮崎基地（赤江飛行場）から出撃した特攻隊員達の遺影や特攻隊員が家族にあてた手紙や遺書などを並べたパネルおよび当時の宮崎基地の全貌が描

かれたパネル、アメリカ軍兵士が実際に使用していた装備品や戦闘機の模型などを展示しているほか、MRT 宮崎放送の協力を得た映像視聴コーナーを設置しています。また、宮崎県内で飛行中に撃墜されたり、不時着したりしたことなどが原因で命を落としたアメリカ兵 38 人の資料も展示していて、日米双方からの視点による展示をしていることが特徴でもある。



さらに、令和 2 年度の展示がきっかけとなって、宮崎基地から飛び立った第 9 銀河隊の飯島誠海軍中尉（昭和 20 年 5 月 11 日に宮崎から出撃し、21 歳で戦死）のご遺族の方から寄贈された飯島中尉が学生時代に残した遺品なども特別展示している。

本資料展を監修している戦史研究家の稲田哲也氏（南九州文化会）は「この宮崎を最期の地として全国各地から集められた大学生と同じ世代の特攻隊員が命を落としたこと。また、多数の若いアメリカ兵もこの宮崎の地で命を落としたという事実を少しでも多くの大学生に知っていただきたい」と熱を込めて語った。

本資料展は令和 3 年 9 月 15 日まで開催予定で、宮崎大学では、このような資料展を通じて、平和に対する強いメッセージを発信していくこととしている。

令和 3 年度宮崎基地特攻資料展 :

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/crcweb/news/event/24199>